

高知県労連
 No. 130
 発行：高知県労連書記局
 住所：高知市丸ノ内2-1-10
 〒780-0850 高知城ホール3階
 [TEL]088-872-3406
 [FAX]088-822-7969
 ホームページもご覧下さい。

こうち生協パーベキュー交流の様子



組織拡大いよいよ大詰め

2年連続の増勢で大会を迎えよう

県労連は昨年の定期大会を増勢で迎えました。九月に開催予定の第二十四回大会を二年連続の増勢で迎えるため、今、全組織で組織拡大に奮闘しています。

「過半数」目指す

こうち生協労組

過半数組合を目指すことを方針に掲げ、組織の拡大を最重要課題として取り組んでいます。この間、学習会を何度も開催し、組織拡大の重要性を全員の共通意識としてきました。また、「距離が近い」「年齢が近い」「この二つの近い（誓い）を意識し、物理的、心理的に対象者との距離を縮めています。

昨年の大会から既に正規職員一名、パート職員を五名増やしており、今後も横の繋がりの強化でさらなる飛躍を目指しています。

福祉保育労

会社存続で組合の力を発揮

高齢者施設での経営悪化で

の解雇や無認可保育所での経営打ち切り攻撃などを跳ね返し奮闘しています。さらにこの三月に新規分会（障害者施設）を結成し、昨年情勢をほぼ回復しています。

組合公然化後に団交を持ち、会社存続に向けて銀行や

建交労農林支部

相談活動強化で組織拡大

東部地域の開拓と全体の底上げを方針に、健康相談をメインとした活動を三月から実施。月二〜三回のペースで東

十市、葉山などで健康相談会を実施してきました。自治体の広報紙や新聞折り込みなどの宣伝から、毎回十人前後の相談者（電話相談含む）が訪れています。着実な前進をみせています。

今後は、相談会を県下全域に広げ、対象者の掘り起こし

県保証協会と交渉。さらに会社に対しては、「未払いの給与の支払い義務と解雇予告手当での支払いの分割」を約束させ、簡易裁判での勝利を勝ち取りました。無認可保育所では会社存続での雇用の確保などに成功しています。

福祉制度の改悪を阻止する闘い展開し、国民の諸要求の実現と、その保障である組織の拡大に重点を置き、組織をあげて取り組んでいます。

と、アスベストやじん肺、振動病以外の様々な相談にもマルチに対応する運営で、組織拡大の飛躍を目指しています。七月は越知町と三原村で健康相談を予定しています。



農林支部四万十市相談会

針路

「失敗の予防学」(中尾政之著)によると失敗を防ぐ黄金ルールは三つ。①他山の石の法則。

他人の失敗を知識化、教訓化する。②慢心の法則。失敗の三悪人(無知、無視、過信)をどう追放するか。③隠蔽の法則。時間が経てば経つほど「傷口」は広がる。隠すと十倍返し。今回の原発事故にも当てはまる▲もう一つの失敗要因は、相互依存の無責任体質。その典型例は、戦前の「大本営政府連絡会議」。「誰も決定しない・誰も責任を取らない」まま、太平洋戦争へ突き進む。これを一人で演じたのが原子力安全委員長の班目春樹氏 ▲原発は爆発しないと断った途端に建屋が水素爆発。すると発言を「格納容器は爆発しないと軌道修正。学校の屋外活動制限基準を「年間二十ミリシーベルト」に変更することを了承。批判を受けると二十以内で可能な限り下げると「二十以内で可能な限り下げると」と修正。海水注入の中止の原因として物議をかもした「再臨界の危険性」発言についても「可能性」に修正して手打ち。ところが、中止がなかったと知ると「自分は何なんだったのか」と苦笑い ▲個人の資質、組織の位置づけ両面で安全委員会は中途半端。安全・保安院含め「失敗を予防」出来る組織を作るべき。(田)

南海大地震への迅速な対応求め

高知県へ要請行動を実施

六月十六日、国民大運動実行委員会は、三月十一日に発生した東北地方太平洋沖地震を受け、南海大地震に対する抜本的な対策の強化を求め、県交渉を実施しました。

国民大運動は、東北地方太平洋沖地震を踏まえ被害想定や対策行動計画の抜本の見直し、医療福祉の対策や伊方原発への対応など5つの項目について要請しました。国民大運動側から十三名が参加し、県庁側は危機管理部などから、危機管理課長など四名が対応しました。



高知県危機管理部との交渉

県としては、東日本大震災を踏まえ、南海地震対策の加速化と抜本的な強化という方針を出しており、その中で平成二十三年度当初予算の見直しや、優先課題の洗い出しなどを行い、対応をしていくとのことでした。また、実際に東北へ職員を派遣し、南海地震時に速やかに対処できる体制を整えているとのことでした。

その他にも、高知県は『高知県事業者防災推進協議会』を結成し、事業継続計画(BCCP)の作成をすすめています。これは、南海地震などの際に被災を小さくし、いち早く事業の継続を図ることを目的とした計画です。交渉の中でも「事業継続には、人材の確保は欠かせない。計画の中には、従業員の安否確認等が含まれている」と答えましたが、事業継続など経済活動の視点が主であることは否めません。

事業継続計画(BCCP)の作成対象には、各市町村、各学校も含まれるとの答弁だったため、私たちは、公務員が地域で活躍できる防災教育を求めました。その要求に対しては検討するとのことでした。

インタビュー

三月十一日の震災を受け、自治労連は四月十二日に若手県連前高田市に被災地支援センターを立ち上げました。高知自治労連は五月二十一日から一週間(現地活動は四日間)に渡り四名を派遣しました。その一人である、高知自治労連 本部書記 長の高月陽生さんにお話を伺いました。



—どんな思いで参加を?

ボランティアとして行くことや、体力的な不安、何か役に立てるかなど、様々な思いが入り交じっていました。しかし、それ以上に自治体職員として、現地で何かを体験したいという思いが一番

その他にも、自主防災組織率の一〇〇%を目標に啓蒙活動に取り組んでいるとのことでした。それに対して参加者から、防災文化の形成には、学校教育から防災についてしっかり学ぶ必要があるのではないか。地震対策マニュアル

—現地はどういう状況でしたか。支援センターへは、東京から一ノ関駅へ入り、そこからバスを乗り継いで陸前高田市へ入りました。一ノ関駅の周辺は、地震の被害はほとんどないようでした。しかし、陸前高田市、特に海岸付近は明らかに違っていました。バスが山を越え、丘を下りると景色が激変しました。テレビで放送される映像が目の前にあり、それを目の当たりにして、震えとなんとも言えない緊張感に襲われました。

—地域の住民の様子は? 震災から二ヶ月が経ち、ある程度の落ち着きを感じました。地域の方から私たちに話しかけてくれたことが印象的でした。しかし、皆さんが最初に言うのは、「水」や「電気」の復旧です。ラ

を全戸配布するだけではなく、学校現場でも活用できる工夫をしてほしい。など、具体的な要望が出されました。県として、前向きな検討を約束しました。今後土木、医療、福祉関係の話し合いを行う予定です。

—ボランティアで感じたことは? 被災者の方々と話ができただこと意義は大きいと思いました。災害があつた時に人と人とのつながりの意味がどういふものかを考えさせられました。自治体職員として、地域との日常的なつながりそのものが大切だと思いました。今回の震災によつて、災害はどこでも起き、『ここは大丈夫』といった安心など何の根拠も意味も持たないと、みなさんも感じたいと思います。私は高校3年の時に阪神大震災を経験し、災害はどこでも起きるといふ人生観を持ちました。みなさんも、ボランティアへ参加できる人はぜひ参加して欲しいと思います。そこで大いに学び、それを自分たちの地域へ還元してほしいと思います。

一次産業を立て直そう！ 食健連再建総会が開催される



今回、TPP（環太平洋連携協定）への参加問題が急浮上し、東日本大震災で農業、漁業など一次産業が壊滅的な打撃を受け、地域の建て直しに大きな困難をもたらしている中、TPP反対は勿論、農業問題を地域の視点で問い直し、運動を進めていこうと再建に至ったものです。

総会に先立ち、高知大学の岩佐和幸教授が、「グローバル化・TPPと食の未来」と題して講演を行いました。

「食糧と健康、地域を守る高知県連絡会」の再建総会が、五月二十一日に開催されました。会場の共済会館には、五十名を超える人たちが集まり、一次産業を立て直し地域を守る方針を決定しました。

岩佐氏は、グローバル化する食の現状を克明に報告、その健康・生命、環境、日本農業や地域に与える影響を説明しました。また、TPPの本質やねらい、その農業だけではない幅広い影響、問題点を指摘しました。その上で、めざ

すべき方向として、人間の生存手段としての「食料への権利」を明確にし、食の生産・流通・消費の再構築の必要性を呼びかけました。

総会では、この間の経過、会則、運動方針、役員、財政の各議案を準備会を代表して田口朝光県労連書記長が提案しました。「地域を守る」という課題を明確にしたのが、高知県の組織の特徴。農業、漁業など一次産業が元気でなければ、地域は支えられない。今回の東日本大震災でも復興の大きな力を一次産業の建て直しが握っている。TPPは秋に結論が出される。それに力を集中すると同時に、産直や幅広い活動を展開しよう」と提案しました。

討論では、生産者、消費者、流通労働者、地域で農業などを支える自治体労働者の立場から、意見が出されました。

新婦人からは「農民連の皆さんの協力を得て、米や大豆の産直運

後期高齢者医療制度学習会



後期高齢者医療制度の廃止を求める実行委員会主催の学習会が、6月12日に県立大学永国寺キャンパスで開催され、50名が参加しました。県立大学の田中きよむ教授が、「後期高齢者医療制度のしくみとゆくえーそして災害時の高齢者福祉」と題して1時間半に渡って講演しました。

平和行進高知市へ



2011平和行進は、6月4日（土）に高知市へ入りました。メイン行進は、能茶山から高知市役所へ向け、その他は水道局前や、サティ旭店前、中万々などから高知市役所へ『網の目』行進を行いました。午後5時の市役所前集会には、100名を超える参加者が集まりました。「折り鶴」などの平和の歌を合唱し、平和への思いをひとつにしました。

争議支援統一行動を実施



全労連の争議支援統一行動日の5月27日、高知県労連は県内の争議の一日も早い解決を求め、要請行動を行いました。要請行動には、私学教組、高知一般、自交総連と県労連役員ら8名が参加しました。この行動を通じて、争議者、争議組合間の交流、連帯が広がりました。今後も、折を見て争議組合の連帯行動を企画していきます。

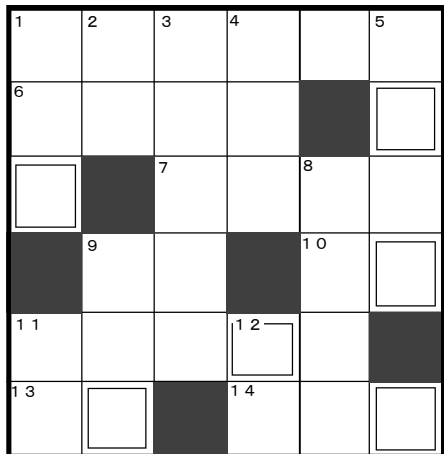
働くものの学習交流集会 in 愛媛

六月十一日、四地協主催「働くもの学習交流集会」を愛媛県の松山レインボーハイランドで開催しました。四国から青年を中心に約百二十名が参加しました。学習の部分では、「不当解雇」をテーマに、JALの不当解雇と闘うキャンペーン・オンラインの方の講演や、社会保険庁と旧西条市立周桑病院の分限免職の問題を学習しました。また、二日目には不当解雇撤回を求める模範団体交渉も経験しました。次回は高知県が会場となります。四国で、職業の違いを超えた唯一の集会です。皆さんの参加をお待ちしています。



動を行い、収穫祭もやっている。食の安全や食育などの運動をさらに広げて行きたい」と発言。県農協連労組の代表は、「TPPは農業問題であるかのようにマスコミでは喧嘩されているが、地域に関わる大きな問題。このような会が結成され、心強い。一緒に頑張っていきたい」と表明がありました。

まとめの発言の後、各議案が拍手で承認されました。選出された役員は、会長に岩佐和幸（高知大学人文学部教授）、事務局長に中岡健太（こうち生協労組書記長の各氏が選ばれました。今後役員を補充していくことも承認されました。



クロスワードパズル

カギを解き、二重ワクに入る文字を並べ替えてできる言葉は何？

「タテのキー」①空虚な様子。——な目 ②同点。○

【ヨコのキー】

①キャッチフレーズ ⑥続刊 ⑦胃の検査で使う ⑨○○まで連行する ⑩

西はW。東は？
⑪弱拍の対 ⑬記事を○○で囲む ⑭ギリシヤ

——。安全

○スコア ③暴飲暴食が原因で——に ④弟子。——生 ⑤冷却機。——ボツクス ⑧すぐれた君主 ⑨医—— ⑩今わの○○ ⑫友好の○○渡し

**クロスワードパズル
図書券プレゼント
チャレンジ**

《応募方法》
クロスワードの答えと、機関紙の感想、組合名、郵便番号、住所、氏名、年齢を記入の上、県労連書記局宛にお送り下さい。

抽選で三名様に図書カードをプレゼントします。(ハガキ、FAX、eメール)締め切りは翌月の二十日になります。

当選者の発表!

129号・クロスワードパズルの答えは「ハツガツオ」でした。当選者が抽選で決定しました。おめでとうございませう。当選を逃した方もドンドン挑戦してください。

《当選者》
浜口 三矢さん (県教組)
楠木 豪さん (四万十市職労)
小野川 有紀さん (四万十町職労)



**国民大運動
二〇一一年度総会を開催**

六月十一日、国民大運動の年次総会が高知城ホール4階で開催されました。

第一部では、「東日本大震災の教訓と南海地震」と題し、岡村眞高知大学教授が講演し、会場は百五十人を超える人であふれました。

岡村氏は、現地調査による資料、津波の映像などを使い、いかに生き延びるかを真正面から訴えました。

「南海地震は必ず起きる」という心構えが、大切。「起きるかも知れない」では甘えが出る、と指摘。東北地方で津波警報が出ても逃げなかつた人たちが半数いた原因を聞き取り調査を基に分析。行政のあり方を

問うと同時に、個々人の防災意識の高揚を訴えました。

第二部の総会では、西山潤代表委員の開会あいさつの後、田口朝光事務局長が方新案を一括提案しました。

県交渉では、TPP反対の意思表示をいち早く引き出し、香南市の自衛隊問題でも米軍との共同演習反対、自衛隊の市中行軍など住民に不安を与えないための自衛隊、自治体との事前協議の実施などの積極的な答弁を得ました。また、乳幼児の医療費の無料化の県下の前進、高知市における国保の一ヶ月の短期証をやめさせ三ヶ月以上にしたこと、四十才から六十四才の特定健診を無料化した成果。さらに、あつたか村相談会の全県下的な実施、食健連の再建などの前進面が報告されました。

討論では、地域単位での防災対策の必要性、避難所でのDVの問題、社会保障と税の一体改革、復興財源としての消費税問題などについて、八名が発言しました。

万一の病氣・不慮の事故にそなえて

医療共済

1ヵ月わずか
1,000円の
(10口分)
掛金で

充実の保障

全労連共済
お申し込み・お問い合わせは
各共済会へ

時事川柳

富人のとみちらかして純す国に (源朝光)

天を指し地を指しその手胸に当て (源朝光)

遠いけど必ず春はめぐり来る (幸泉)

「故郷に錦」誓った地にはもう帰れず (牧師)

時事川柳募集

県労連
HPをリニューアル!

『高知県労連』で検索ください。
携帯用サイトはこちら↓

携帯からのご相談もフリーダイヤルで無料です。お気軽にご覧下さい。